

## 2018年度第2回例会

日時:2018年9月29日(土)13:30～15:30

会場:ウイングス京都

司会:廣田 輝子

出席者:17名

当日は台風による影響であいにくの空模様でしたが17名の皆様にご参加いただき、賑やかな会となりました。2018年度の第2回例会は支部長の挨拶に続いて、株式会社傳來工房代表取締役社長である橋本和良氏にご講演いただきました。

### 松田栄子支部長挨拶

本日はお忙しい中、そして台風が近付いている影響からお足元の悪い中お越し頂き、ありがとうございます。

さて、歳を重ねてもいつも前向きでいたいと思います。そこで今年度の活動において、「大きな視点を得る」「私たちが身近に持っている財産に目を向ける」という目標を掲げました。それを踏まえて今年度は「AI(人工知能)技術の発展とこれから」、「官僚の仕事とは何か」という講演を聴き、今まで知り得なかった分野について学ぶ事が出来ました。そして今回は傳來工房社長の橋本知良様をお招きすることができ、大変ありがたく思っております。

2つ目は私たちの身近な財産という事で、家族や自分の近くの方の話をお聴きすることで1つ目の目標である大きな視点を獲得出来る事を目指しております。そしてこの活動を通して日々前向きに進んでいけたらと思っております。

### 講演 ～基礎力がすべてを変える～



講師 橋本知良氏

玉川大学工学部卒。大塚製菓を経て昭和57年傳來工房入社。平成7年同社社長に就任後たった一人のトイレ掃除から20年かけて環境整備活動を全社に浸透させ、今では「環境整備」についての講演やメディア出演も多数。趣味は読書、ウォーキング。

今回の「基礎力がすべてを変える」というテーマの基礎力とは環境整備活動を意味する。この活動があったから今会社が存続し、そして新たな事業にもチャレンジできていると思っている。これは企業経営に限らず、人間が生きて行く上で非常に大切な事である。

### 傳來工房1200年の歴史

傳來工房は弘法大師(空海)が平安時代初期に遣唐使として唐に渡り修行。その後大陸の文化や技術と共に職人集団も連れて帰国した。その中に鑄造の青銅蠟型鑄造技術があり、それを受け継いだ職人が「職人集団傳來」を発足させる。のち、一番弟子が傳來を継承して現在に至ると言い伝えられている。

全国の神社仏閣の装飾金物品を納めていたが、戦時中は金属、武器弾薬に変えられたのでそれできなくなった。しかしそのままでは会社の存続が出来なくなるので、機械金属分野の重要な技術である鑄造技術を活かして自動車部品や機械部品製造にシフトして存続させた。現在は群馬等に工場を設け、京都は原点に戻るべく建築美術工芸部門を立ち上げた。伝統仏教に加え近代建築の装飾金物の分野に進出し、平成11年からは一般住宅建築や住宅エクステリアの製造も手掛け、主力事業としている。

## 環境整備

傳來工房では環境整備として礼儀・規律・清潔・整頓・安全・衛生。この6点をお客様視点で徹底的にレベルアップする活動と定義付けた。

- 礼儀・・・挨拶は明るく元気にはっきりと。お客様には笑顔で接し感謝の気持ちを込めて相手よりも先に挨拶する。
- 規律・・・結果は期日までに必ず報告する。
- 清潔・・・不潔な場所をなくす
- 整頓・・・不用品は捨てる
- 衛生・・・不衛生な場所をなくす。特にトイレはピカピカに磨く

一つ一つは簡単な事で自分がやろうと思えばすぐに出来る事であるが、これを会社、社長方針と決めてやろうとしても出来ていない組織、社員がほとんどである。やろうと思ったらすぐに出来る事もやらないような社員や組織が外部的疎外要因のある営業活動等が出来るはずがない。まず、このような基本的な事が出来る社員を育てようと取り組んで来た。

発端はバブルの頃、近代美術装飾品の仕事がたくさん入って来た。しかしバブル崩壊後そういった仕事は一気になくなってしまい、背に腹は代えられず大手建材メーカーの下請けを始めた。最初は順調だったが、毎年コストダウンを強要された。そのコスト吸収のため、あらゆる改善活動手段を試したが結果が出ず、このままでは会社が潰れてしまうと、経営書を読んだり、セミナーに参加したりしていた。その中で環境整備活動に巡り会い直感で導入の決心をする。早速社長方針として経営計画書に書き、社員に伝えるが全く定着せず、2年が過ぎても全く成果が表れず、業績もどんどん悪くなっていった。これではいけないと、すでに導入に成功している会社の社長に教えを請いに出向くと、社長から出たのは

「社長がやらずして誰がやる。本当に定着させたかったら朝一番に行って自らトイレ掃除から始めなさい。」

と言う厳しい言葉だった。それまでトイレ掃除などしたことが無かったが、その帰りに決心して道具をそろえて実行に移した。最初はゴム手袋をはめて、トイレブラシで嫌々掃除していた。社員もどうせ3日と続かないだろうという目で見ていた。

しかしそれから3か月。必死にやっていると、だんだんトイレ掃除は心の掃除だという気づき生まれ、もっと磨きたいという欲がでてきた。そして半年。自分で道具を探し、工夫し、手作りして素手で磨いていた。1年。仕事に取り組む精神そのものだと確信。全社員でやれば会社が変わると思い、再導入を決意した。

そこで最初は勤務時間中に仕事としてトイレ掃除をするように方針決定し、伝えた。ところが社員たちは全くやろうとしない。特に営業担当の社員はあらゆる言い訳を並べて拒否した。しかしこれをしないと会社が変われないと確信していたので、

「トイレ掃除ができない奴は仕事を辞めてくれ」

と言うと数人辞めた。しかし辞めたのは日頃から否定から入る人間ばかりで却って風通しが良くなった。こうしてだんだんと環境整備が浸透してきて、個人の仕事への考え方や取り組む姿勢などの違いが判るようになってきた。環境整備に真剣に取り組む社員は成果が仕事にも反映されていたのだ。

そして3年たつと全体的に結果が出てきた。会社にやって来たお客さんの反応が変わってきたのだ。それに営業の社員が気づきはじめ、今では熱心に環境整備に取り組み、お客様を会社にお連れするのが最大の営業活動となっていった。

## 臨界点

環境整備により沢山の臨界点に出会った。

例えば挨拶。職人気質の堅物な人達もどんどん変わっていき、明るく元気に挨拶する様になった。すると訪問客がこの人の作るものを使いたいと思ってくれるようになった。

つまりは職人が最高の営業マンになったのだ。

環境整備をすることによって社員の人格も製品もサービスもピカピカに輝いてくる。環境整備は社員全員の営業活動であり仕事の原点である。そしてお客様に最高の営業マンと言っていただけの社員は最高の商品だと思えるようになってきた。

## 定位置、定品、定量

“決められた場所”に

“決められた物”を

“決められた量”だけ置く。

そしてそれに加え、最も生産効率の上がる場所、決められた場所以外置かない事、欠品を起ささない最小の量、それを使いやすく戻しやすく管理しやすく美しくする事を“3定”という定義付けをし、そして会社全体を3定化する事を目標とした。その3定には雛形を作らず、社員に創意工夫して自分の3定を作ってもらい、その考える力を仕事にも活かせるように考えている。

この活動で大切な事の一つとしてマンネリ化しないことがある。新入社員が初めて環境整備に出会い、その中で迷いが出ないように丁寧に説明。環境整備をする先には何があるのかを明確にする事でマンネリ化を防いでいる。

社会的価値の高い経営理念の元、その企業らしさを感じさせる独特のビジネスモデルを磨き上げ、その結果継続的成長を続ける会社であると同時に、社員が素晴らしい会社と誇りを持つ独特のカルチャーが形成されている企業をホームにしよう。そのために環境整備を毎日進化させなければならない。

京セラ創業者でもある稲盛和夫氏の言葉で、人生の成功の方程式は「能力×熱意×考え方」というのがある。能力、熱意があっても考え方ひとつでプラスにもマイナスにもなるという事。考え方を磨くために“基本”を「形より入って心に至る」まで徹底的に継続する事が大切だという思いに至った。

講演後の質疑応答では質問と同時に、感動し気づきを得た会員から感謝の言葉が複数出ました。応用ばかりの現代人にとって基本に立ち返るというのは不可欠な事だと強く感じました。講演後は来年度の全国総会へ向けての準備の進捗について報告され、閉会となりました。